

奉_レ加_レ櫛之間、天皇
示_レ不_レ向_レ京由云々、

〔江家次第第十二〕齋王群行

宸儀渡御大極殿、○註 藏人持候御笏式并齋王額櫛宮等
此御先仰_二作_一物所、以_二黃楊木_一令_レ作、長二寸許、

中略 内侍奉仰進齋王許、申可_レ近參給由、親王近候御前、○註 天皇、以櫛刺加其額勅京、乃方仁趣支

給_不奈、次内侍以櫛宮給親王乳母、件櫛、今夜刺之、至勢

〔源氏物語賢木〕齋宮は十四にぞ成給ける、いとうつくしうおはするさまを、うるはしうゑたて奉

りたまへるぞ、いとゆゑ、しきまで見え給を、みかど御心うごきて、別の御くしたてまつり給ふ、いとあはれにてゑはたれさせ給ひぬ、

〔大鏡三條〕齋宮○三條皇女當子のくだらせ給ふ、わかれの御くしさ、せ給ひては、かたみに見かへらせ

給はぬ事を思ひかけぬに、此院○三はむかせ給へりし、あやしとは見奉りし物をとぞ、入道殿藤

長原道 おほせられける、

〔榮花物語松の十八枝〕齋宮には當代○後の女二宮○俊ゐさせ給へりつる、九月○四年延久にくだらせ

給ふ、あはれなることどもおほかり、大極殿にて、わかれの御くしなどのほど、いとあはれなり、御

ぐしあげさせ給ひて、いとかうぐしくゑたて、おはします、

〔新撰六帖五〕くし

前左京大夫

あふことをとふやゆふげのうらまさにつげのをぐしのゑるしみせなん

〔歌林拾葉集十一〕櫛

信實

あふことをとふや夕げの占まさにつげのをぐしもゑるし見せなん

此歌は古記云、兒女子云、持黃楊櫛女三人、向三辻問之、又午歳女午日間之、今案三度誦此歌、作
界散米、鳴櫛齒三度、後堺ノ内ニ來ル人答爲内人言語、聞推吉凶云々、くしの占といふこと、